

THIS WEEK

Dictionary

Book 電機業界「亡霊」から逃れられるか

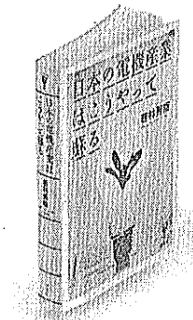
「日本の電機産業はこうやって蘇る」(洋泉社)は、IT(情報技術)からEE(エネルギー&エコ)、端末からインフラへの経営転換が、電機業界の生き残りのための唯一の道だと言い切る。著者の若林秀樹氏はトップアナリスト、ヘッジファンドの運用者として25年以上、電機業界を見つめてきた。その舌鋒(ぜっぽう)は鋭く、論旨は明快だ。

パソコンや携帯電話などの分野では「ウィンドウズ」のマイクロソフト、半導体のインテルが業界を支配する「ウィンテル」体制が徐々に崩壊。著者はこれに代わる新興勢力を、尊敬と脅威の意味を含めて「A Ghost(亡霊)」と名付けた。

Aはアップル、Gはグーグルの頭文字。これに世界最大のEMS(電子製品の製造受託サービス)の台湾の鴻海

精密工業(ホンハイ=Ho)、韓国サムスン電子(S)、半導体受託生産会社(ファウンドリー)最大手の台湾積体回路製造(TSMC)が加わる。

日本勢は「亡霊」のいないEE・インフラ分野に経営資源を投入せよと主張する。商品・サービスをまるごと提供できる「総合」電機の良さを生かせるとみる。良い経営者・悪い経営者の違い、大胆な業界再編の予想も面白い。



厳しい指摘の中にも、日本の電機産業への愛情を感じる一冊だ。

(宮本岳則)

日本経済新聞

2011年(平成23年)6月5日(日曜日)

読書

SUNDAY NIKKEI

日本の電機産業は
こうやって蘇る

若林 秀樹 著

携帯情報端末は米国のアップル、ソフトウエアや情報サービス事業はグーグルに勢いがある。半導体や電池では韓国、中国、台湾勢の台頭が著しく、日本企業存在感は年々薄まっていく。電機業界のトップアナリストとして鳴らした著者によれば、日本の電機メーカーは鉄道、水処理、次世代送電網システムなどのインフラ輸出や重電、白物家電に活路を見いだすべきだという。温暖化防止など世界的変化に合わせた経営戦略を説く。(洋泉社・1500円)